

特別企画 映画・映像関連企業の業績・倒産動向調査

業績好調も倒産は増加

～『君の名は。』などヒットの影で中小制作は苦戦～

はじめに

『君の名は。』『シン・ゴジラ』など話題作が多かった 2016 年の映画業界。一般社団法人 日本映画製作者連盟によると、2014 年以降連続で国内の映画興行収入は増加しており、好調が続く。その一方で、過去にヒットした映画の制作などに携わった企業の倒産も発生した。また、近年のメディア環境の激変や景気の低迷から、厳しい経営環境を余儀なくされている映像制作会社なども少なくない。

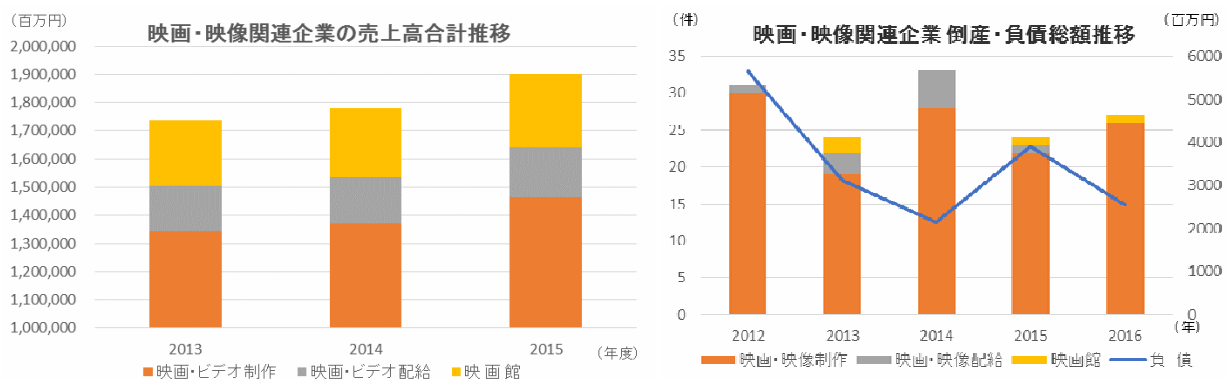
こうした状況を踏まえて、帝国データバンクでは、映画・映像関連企業の業績および倒産の動向について調査・分析を行った。

※ 「映画・映像制作」「映画・映像配給」「映画館」に分けて調査・分析を行った

※ 倒産動向は負債額 1000 万円以上、法的整理のみを対象

調査結果（概要）

1. 2015 年度の映画・映像関連企業の売上高合計は、前年度比 6.9%増の 1 兆 9,010 億 8,700 万円、当期純損益の合計は前年度比 16.5%増の 824 億 7,100 万円と「増収増益」となった
2. 2016 年の映画・映像関連企業の倒産件数は前年比 12.5%増の 27 件発生。負債総額は、同 34.6%減の 25 億 6,100 万円と減少した



1. 業績動向 ～増収増益で市場規模拡大～

映画・映像関連企業 2,683 社の 2015 年度の年売上高合計は、1 兆 9,010 億 8,700 万円となり、前年度に比べ 6.9% 増加となった。「映画・映像制作」「映画・映像配給」「映画館」いずれの業態でも前年度比 7% 前後の伸びを見せており、ここ数年で市場規模は拡大している。

また、2015 年度の当期純損益の合計は、前年度比 16.5% 増の 824 億 7,100 万円と 2 ケタ増となった。特に「映画・映像配給」「映画館」における増加が目立つ格好となった。

一般社団法人映画製作者連盟が発表する国内の映画興行収入を見ると、ここ数年は概ね増加基調で推移。映画・映像関連企業の好調な業績の推移と一致している。

売上高合計推移

(単位:百万円)

年度	映画・映像制作	映画・映像配給	映画館	合計	前年度比増減率(%)
2013	1,342,319	162,293	231,637	1,736,249	—
2014	1,371,373	164,465	243,014	1,778,852	2.5
2015	1,464,337	177,383	259,367	1,901,087	6.9

当期純損益合計推移

(単位:千円)

年度	映画・映像制作	映画・映像配給	映画館	合計	前年度比増減率(%)
2013	53,985,197	4,072,123	4,997,573	63,054,893	—
2014	57,709,997	4,602,949	8,460,233	70,773,179	12.2
2015	63,208,713	7,058,570	12,204,425	82,471,708	16.5

2. 倒産動向 ～「制作」で前年比増加～

映画・映像関連企業の 2016 年の倒産件数は 27 件で、前年比 12.5% 増加。一方で、負債総額は 25 億 6,100 万円で前年比 34.6% の減少となった。

昨年は、『君の名は。』『シン・ゴジラ』のほか、洋画では「スター・ウォーズ/フォースの覚醒」などヒット映画が多く、国内の映画興行収入は過去最高を更新するといわれている。そうしたなかで、「映画・映像配給」の倒産は 1 件も発生しなかったが、「映画・映像制作」が前年比 18.2% 増加。『ALWAYS 続・三丁目の夕日』

などのプロデューサーが代表を務めた (株)クロニクルや、『さくらん』などの作品に携わった映画プロデューサーが代表を務めた (株)フェローピクチャーズといった、ヒット映画にかかわった制作会社の倒産も発生した。

また、従来のテレビを中心としたメディア環境が激変、映像制作会社にとって大きな取引先であるテレビ局からの受注減少や、ここ数年の景気低迷の影響からクライアント企業の経費削減などの理由から業績が低迷、倒産に至った制作会社も散見された。

倒産件数推移

年	映画・映像制作	映画・映像配給	映画館	合計	前年比増減率(%)
2012	30	1	0	31	—
2013	19	3	2	24	▲ 22.6
2014	28	5	0	33	37.5
2015	22	1	1	24	▲ 27.3
2016	26	0	1	27	12.5

負債総額推移

(単位:百万円)

年	映画・映像制作	映画・映像配給	映画館	合計	前年比増減率(%)
2012	4,262	1,376	0	5,638	—
2013	2,695	343	73	3,111	▲ 44.8
2014	1,730	418	0	2,148	▲ 31.0
2015	3,823	60	30	3,913	82.2
2016	2,549	0	12	2,561	▲ 34.6

3. 今後の見通し ～好業績維持も制作会社の倒産動向に注目～

『君の名は。』をはじめ『シン・ゴジラ』などが立て続けにヒットした東宝（株）は、2017年2月期において過去最高益を見込む。好調な映画・映像関連企業の業績は、2016年度も引き続きその勢いを維持するものとみられる。

その一方で、中小の制作会社の倒産は減っておらず、業界全体の業績が伸びているなかで、その恩恵を受けることができない中小企業が存在する事実がある。興行収入が伸びる映画業界が牽引する一方で、メディア環境の変化により既存のマスメディアはかつての力を失いつつある。それが制作会社の受注に影響を及ぼしている状況があるなかで、「映画・映像制作」会社の倒産動向の推移に注目する必要があるだろう。

【内容に関する問い合わせ先】

(株) 帝国データバンク 東京支社情報部 担当：山口 亮

TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348

当レポートの著作権は（株）帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。